

「一粒の小麦は死ななければならない」

一粒の麦が死ぬとはどういう意味ですか？ イエスは、一粒の小麦が実を結ぶためには死ななければならないと言っています。私たちの箇所では、イエスは「何人かのギリシヤ人」からの彼に会うようにとの要請に応じています。イエスがこれらのギリシヤ人と直接会ったことがあったかどうかは明らかではありませんが、イエスが差し迫った自分の死について話していることは明らかです。イエスがフィリポとアンデレに説明している死は、ユダヤ人と異邦人の両方に利益をもたらす死です。言い換えれば、イエスの死は、いつの時代も、あらゆる場所のすべての人々にとって意味があります。それは世界的な影響力を持っています。三位一体の神が世界を創造し、今、三位一体の神が世界を贖っています。コロサイ人への手紙第 1 章は、永遠の御子を通して世界が創造されたことを教えてくれました。ヨハネ 12 章で、イエスは永遠の御子によって世界が救われると言っています。

イエスは死によって世界を救われますが、永遠のいのちを与えられるのはイエスを受け入れた人々だけです。ヨハネの福音書には、贖いという恵みの賜物から恩恵を受けるのは、信仰によってイエスを受け入れる人々だけであるという十分な証拠があります。ヨハネ 1:12 「しかし、彼を受け入れ、彼の名を信じたすべての人に、彼は神の子供になる権利を与えました。彼らは、血でも肉の意志でも人の意志でもなく、神の子供として生まれました。」

イエスが罪人のために死んだというメッセージは、単なる物語ではありません。それは、悔い改めとイエスへの信仰への呼びかけを伴います。しかし、悔い改めとは何か、信仰とは何か？ 第一に、悔い改めとは、あるものから別のものになる行為です。私たちは通常、下した決定を悔い改めます。正確に言えば、悔い改めとは、私たちが悪いと思うものから、良いと理解するものに変えることです。では、私たちが悔い改めて（向き直って）イエスを信じると言うとき、それは何を意味するのでしょうか？

基本的に、私たちが言おうとしているのは、自己愛と罪から、イエスが誰であり、彼が成し遂げたことを信頼することです。信頼という言葉は、私たちが信仰によって何を意味するのかを明確にするので、非常に便利な言葉です。私たちは、イエスとイエスが罪人のためにしてくださったことに固執し、寄りかかり、人生を築かなければなりません。このように神に頼るということは、神との平和と人生の意味を求める他のすべての方法に背を向けることを意味します。イエスに信仰を持つということは、溺れている人が救命具にしがみつくように、イエスにしがみつくことを意味します。私たちは、良い土台の上にだけ建てることを選ぶ賢明な建設業者のように、神の約束に基づいて生活を築いています。私たちは、体に栄養を与

えるために食べ物に頼るのと同じように、彼に頼っています。イエスは生と死における私たちの唯一の希望です。ですから、イエスが「時が来た」と言うとき、それは私たちに大きな希望と喜びをもたらします。しかし、私たちはテキストで自分たちよりも先を行っています。

少し前に読んだ聖句は、何人かのギリシア人、ピリポ、アンデレ、そしてイエスの間のやり取りについて語っていますが、この会話の前に何が起こるかを理解するために重要です。イエスの人生と宣教のこの時点で、彼はすでにユダヤとガリラヤを広範囲に旅しています。彼は数え切れないほどの人々を癒し、権威をもって教え、ユダヤ社会の主要人物の知恵を超えた知恵を示しました。ヨハネ 10-11 節で、イエスと弟子たちは、バプテスマのヨハネが人々にバプテスマを施していた場所において、友人のラザロが病気で死ぬという知らせが届きました。

イエスはラザロを愛していましたが、すぐに彼を癒しに行きませんでした。彼はラザロが住んでいた場所に行く前に数日待った。イエスがベタニアの町に到着した時、ラザロはすでに死んでいた。イエスがご自身を復活であり命であると宣言されたのはその時でした。つまり、イエスを信頼する者はもはや残酷な死の支配下にありません。この真実を実証するために、イエスはラザロを死からよみがえらせました。ラザロが死からよみがえった後、宗教指導者たちはイエスを逮捕して殺す方法を模索しました。しかし、残念なことに、ラザロが生き返ったのを見て、さらに多くの人々がイエスを信じました。イエスをめぐるこうした興奮はすべて、いわゆる凱旋式で最高潮に達しました。ラザロが死からよみがえった後の週の最初の日に、イエスはロバに乗ってエルサレムに入り、人々の賛美の叫びを上げました。彼らは彼をイスラエルの王と宣言しました。

イエスがエルサレムに入った後、ヨハネ 12:20-21 は、崇拝するためにそこにいた何人かのギリシャ人がイエスの弟子たちに近づき、イエスとの謁見を求めたと述べています。ほとんどの聖書解説者は、イエスと会うためにこれらのギリシャ人が到着し、彼らへのイエスの反応は、イエスの贖いの働きに異邦人が含まれていることを示していると言います。イエスは宣教の過程ですでに何人かの異邦人に遭遇しましたが、来るべき神の王国を説教するために弟子たちを派遣したとき、イエスは彼らに、異邦人やサマリア人の土地に入らないように言いました。しかし、今は状況が変わったようです。彼らのアプローチは、状況が変化したことを示しているようです。

ギリシア人は、弟子たち、つまりフィリポを通してイエスに近づきます。彼らがなぜフィリポに近づいたのか、フィリポがベツサイダの出身であることをどのように知っていたのか、私にはわかりません。おそらく、彼らはすでに彼を知っていたか、彼が話すのにふさわしい人物であることを彼らに伝える訛りで話していたのでしょう。よりありそうなのは、フィリップの詳細が物語に付随しているということです。言い換えれば、ヨハネがこれらの詳細を含めたのは、詳細がアカウントにより信頼できる情報を追加するためです。ギリシア人はフ

イリポに話しかけ、ヨハネはその事実を記録しています。他のすべての使徒はガリラヤ出身だったので、同じ種類のアクセントなどを持っていた可能性が高いと思います。その時、私にはもっともらしいと思われるのは、フィリポに近づき、彼についての詳細が正確に物語を語るために与えられたということです。

いずれにせよ、ギリシア人はイエスに会いたいと言い、フィリポはアンデレにどう思うか尋ねます。その後、アンドリューとフィリップは一緒に行き、ギリシャ人が彼に会いたいと思っていることをイエスに伝えます。私の意見では、イエスの反応は非常に驚くべきものです。彼は、栄光を受ける時が来たと宣言することによって応答します。ギリシア人が彼に会いたいと思っていたことと、彼の時が来たというイエスの宣言との関連性を理解するのは、やや難しいです。イエスが「時」が来たと言ったとき、私たちはヨハネの福音書の主要なテーマの結末を見ることができます。イエスは福音の中で繰り返し、自分の時はまだ来ていないと言っています。ヨハネ 2 章、ヨハネ 4 章、ヨハネ 5 章、ヨハネ 7 章を さかのぼって読むことができます。これらの章で、イエスは時が来ている、または彼の時はまだ来ていないと言っています。しかし、何かが変わった。彼の時が来ました。

イエスの反応から、十字架が彼の前にどれほど迫っていたかを推測できると思います。 27 節でイエスは、「今、わたしの心は動揺しています。そして、私は何を言うべきですか？『父よ、この時間から私を救ってくださいますか？』しかし、この目的のために私はこの時間に来ました。」イエスにとって重要なことは、彼が地上に来た時が来たということです。永遠の御子が人間として生まれるためにへりくだったことを思い出してください。彼は私たちと同じように成長しました。彼は私たち全員が直面するのと同じ誘惑と試練を経験しましたが、罪に屈することはありませんでした。しかし、私たちの主イエスは、試練や誘惑のためだけに地上に来られたのではありません。イエスは世を贖うためにこの世に来られました。今こそ彼の目的を果たす時でした。

イエスは、何が起こらなければならなかったかを説明するために、弟子たちにたとえを話します。彼は言いました。「まことに、まことに、あなたがたに言います。一粒の麦が地に落ちて死なない限り、それは独りのままです。しかし、もしそれが死んだなら、それは多くの実を結びます。」この世のイメージはわかりやすいです。小麦（またはその他の植物）に何らかの意味があるためには、収穫または植え替えを行う必要があります。成熟したお米がいっぱいの田んぼは気持ちのいい光景と言えらると思いますが、本当の楽しみは、収穫されたときに空腹を満たしてくれることを知っていることです。同様に、小麦はそれ自体では何の役にも立ちません。小麦がどうにか自分の命を守ろうとするなら、それはほんの少し長く、まだ儂い存在でしかありません。一方、小麦は地面に落ちればすぐに枯れてしまいます。しかし、そのように枯らすことによって、小麦はより多くの実を結びます。

イエスの言い分は明らかです。自分の命を捨てることによって、彼はまず第一に地球に来た

目的を達成するでしょう。彼は罪人が必要とする贖いになるでしょう。彼は私たちの恥ずべき、法を破る罪の罰を取り除いてくださいました。主イエスの死は、信者の少数のグループに利益をもたらすものではなく、特定のグループの人々にのみ役立つものでもありません。

「何人かのギリシア人」の存在と、彼を王として称賛するエルサレムの群衆は、より大きな現実を示しています。イエスは世のために命を捨てています。ヨハネ 3 章 16 節はこう言っています。「神はその独り子をお与えになるほどに世を愛されたからです。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためです。」黙示録 5:9-10 は次のように述べています。「…あなたは巻物を手に取り、その封印を解くに値する。あなたは殺され、あなたの血によって、あらゆる部族、言語、人々、国から神のために人々を贖ったからだ。そして、あなたは彼らを王国とし、私たちの神の祭司としました。彼らは地上を支配します。」

これが起こるためには、一粒の麦が地に落ちて死ななければなりません。ですから、少し時間をとって、罪と神への反抗の代償を考えることが私たちの義務です。私たちは皆罪を犯しており、誰も義人ではありません。文化に関係なく、私たちは皆、自分が正しいと知っていることを実行できなかったことを認めています。聖書の罪の定義はそれよりも深いものです。エデンの園で、アダムとイブは神の命令に背き、罪を犯しました。彼らは、激しい恥のゆえに罪を犯したことを知っていました。私たちはその恥を理解しています。私たちは皆、やるべきことを怠ったために罪悪感に襲われたことがあります。しかし、私たちがすべきことは他にもたくさんあります。自分の過ちに気付くと、恥ずかしさが増します。恥は罪を認識する上で重要な部分ですが、罪の別の側面は、それが法律違反であるということです。ほとんどの人は、法を犯していないと言うので、自分が罪人であるという考えを退けることができます。しかし、彼らは誰の法律によって自分自身を判断していますか？ 法律は常に変化するため、彼らが自国の法律に反して自分自身を判断している場合、それは慰めにはなりません。私たちは皆、何らかの法律に違反している可能性が高いです。一方、聖書が罪について語っているとき、それは神の律法について語っています。これを法と呼ぶことができます。律法は神から来ており、神の性質を明らかにし、何が正しくて何が間違っているかを示します。私たちは皆、律法に従わなかったのです。私たちは神の戒めを破り、アダムとイブのように罪を犯しました。律法は普遍的であり、人類の心に刻まれています。嘘、殺人、盗み、姦淫が間違っていることを世界中の人々が知っているのはそのためです。人は罪を許しても、それが間違っていることを知っています。

罪はどこにでもあり、私たち全員に恥と裁きをもたらします。殺人に対する正当な罰は何だと思えますか？ 盗難のため？ 国によって罰則は異なりますが、犯罪が重くなればなるほど、罰も厳しくなります。私たちの場合、神の律法をすべて破っています。彼の法則は彼の性格を表しているので、私たちは単に法律を破っているではありません。私たちは神を拒絶しています。私たちは彼の主権を否定しています。私たちは神を必要としない、または神とは何の関係も望んでいないことを神に伝えています。世界で最も慈悲深い王でさえ、その種の反乱を罰しなければならないでしょう。唯一の真の神は、罪深い人類に裁きをもたらす

ことにおいて公正です。そしてその判断は死です。「罪の報いは死ですが、神からの無償の賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠の命です。」 **ローマの信徒への手紙 6:23**

イエスの話に戻ると…彼は、小麦の粒が実を結ぶためには地に落ちて死ななければならないと言っています。あなた見えますか？イエスは罪深い人類のために命を捨てています。私たちは皆、死刑を正当に課されましたが、イエスは神の定められた裁きを果たすために、私たちの代わりに命を捨てました。罪と悪魔の力は強い。神の裁きは明確です。しかし、神の恵みはもっと深いです。イエスはご自分の民のために命を捨てました。彼は苦しみ、出血し、そして死にました。彼は埋葬され、死者に降りました。彼は私たちのためにこれらのことをしました。そして、彼には罪がなかったので、神は彼の犠牲を受け入れました。三位一体の神の知恵によって、裁きが回避され、神の民として神とともに住むことができるようになります。罪の代価は非常に高いです。私たちはそれを支払うことができません。しかし、神は私たちに必要なことをしてくださいました。

イエスは**ヨハネ 12:24** で自分自身について話していますが、すぐに彼との関係について話しています。**25 節**でイエスは、「自分のいのちを愛する者はそれを失い、この世で自分のいのちを憎む者はそれを永遠の命のために保つでしょう。」これは、「厳しい言葉」と見なすことができるイエスの言葉の 1 つです。イエスは、私たちが自分の人生を憎む場合にのみ永遠の命を得ることができるかと本当に言っていますか？それは本当に惨めに聞こえます。一方、イエスは自分自身について話している可能性があります。故意に自分の命を捨てることは、自分の命を憎む（または軽蔑する）と言えます。罪のない命を進んで捨てることによって、彼の犠牲が受け入れられ、彼が復活したこともまた事実です。

ヨハネ 12 章 25 節について考える最善の方法は、イエスの例を考えることです。イエスは、私たちが救われるように命を捨てました。言い換えれば、彼は神を真に信頼することの模範を私たちに示しています。人間として、死は怖いものです。それは私たちの存在の終わりのようです。神の計画と意志を信じ、命を捨てるには、信じられないほどの信頼が必要です。イエスは命を捨てました。彼は永遠の命をより重視しました。命から得られるものをすべて手に入れ、力を尽くしてこの命にしがみつ়くために努力している私たちの周りの人々と比較して、主は私たちに私たちのすべての信頼、希望、そして献身を主に委ねるよう求めておられます。それゆえ、イエスは、「**26 節** 私に仕える者は、私に従わなければならない」と言われます。イエスはどこに行きましたか。彼は十字架にかかって死にました。しかし、彼は十字架にとどまらず、墓にもとどまりませんでした。

「わたしのいるところには、わたしのしもべもいます。誰かが私に仕えるなら、父は彼を敬います。」これは大きな約束です。神のために自分の命を捨てたり、すべてを犠牲にするという考えは、高い代償を伴います。しかし、それが私たちの主の命を犠牲にしたこと、そして確かに、私たちの主イエスが扱われた以上の扱いを受けることは期待できないことを覚え

ておくことを強くお勧めします。しかし、この命とイエスの約束を比較すると、この命にしがみつ়くことがどれほどむなしいことがわかります。イエスは、「自分のいのちを愛する（つかもうとする）者は、それを失う」と言っています。守ろうとすれば失う。あなたが自分の命を捨てるなら、あなたは自分の命を永遠に保ちます。もしあなたが主イエスに完全な信頼を置くなら、彼はあなたを彼のいるところに連れて行ってくれるでしょう。イエスは実際に、父なる神が私たちが尊重してくださると言っています。黙示録は王冠について言及しています。パウロは天国での報いについて語っていますが、より良い、より深いことは、私たちが神と共に永遠に住めるようになることだと思います。神と共に住み、神の民の一員になれること以上の賜物は思いつきません。

私たちは、自分の死を待ち望み、弟子たちに次のように言う同じ人から、弟子として召されました。「人の子が栄光を受けるその時が来ました。まことに、まことに、あなたに言います、一粒の小麦が地に落ちて死なない限り、それはそのままです。しかし、もしそれが死んだなら、それは多くの実を結びます。」ナザレのイエスに受肉した永遠の御子は崇拝に値しました。彼は、彼のあらゆるニーズに対処するために、多数の天使のホストを命じることができたでしょう。代わりに、十字架が自分の前であることを知っていたイエスは、私たちのことを考えました。彼は自分の死が実を結ぶことを知っており、自分の死が御父の栄光を現すことを知っていました。したがって、彼は十字架に行きました。イエスを信頼するよう皆さんにお願いします。この命を優先しないでください。すべての人間の命は貴重ですが、壊れやすいものでもあります。私たちは地球上に何日いるのかわかりません。あなたがあなたの人生をどれほど強く握っていても、どんなに健康に気をつけていても、有益な人間関係を築くためにどんなに勤勉であっても、あなたの人生は他の人と同じように終わります。イエスに従うようにとの呼びかけは、十字架で他の人々のために死ぬようにとの呼びかけではありません。イエスはすでに私たちのために死なれました。私たちはイエスに従うように召されています。

イエスに従うことは、迫害に直面することを意味するかもしれません。他の人から拒絶されることを意味するかもしれませんが、私たちの人生が何のためにあるのか（神を賛美すること）、そしてイエスに従う/信頼することによって私たちが受け取るもの（永遠の命）を本当に考えるとき、私たちは何も失うことはないと言えます。

キリスト教徒と非キリスト教徒への呼びかけは同じです。イエスへの信頼。イエスに従ってください。彼は罪人のために死にました。彼が亡くなったのは、私たちが神の家族に養子縁組できるようにするためです。悔い改め、イエスを信頼してください。彼に従う。それが主イエスへのシンプルな応答です。彼に従いなさい。